

## 2021年度事業報告

自 2021年4月1日  
至 2022年3月31日

2021年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大という難局に直面して、協会の運営も困難を極めました。が、会員第一を念頭に事業計画の推進に取り組んだ結果、当協会の果たすべき役割について概ね所定の成果を得ることができました。

1. 施設協会では、JR各社、民鉄各社に鉄道・運輸機構及び関連会社を加えた、全国の鉄道の施設部門に対して、「情報提供」や「情報交換の場」「交流の機会の場」を設定して、鉄道施設技術やノウハウを「横」と「縦」に繋ぐ取り組みを進めてきました。
  - (1) 協会活動の基幹的なツールである協会誌について、全会員に実施したアンケートを踏まえて、より会員のニーズにあったものとなるように編集方針を見直しました。また、2022年度に鉄道開業150周年を迎えることから準備を進め、第一弾として3月号には鉄道大型プロジェクトについて特集しました。更に2022年度から新たに連載を開始する「技術伝承のために一事例から学ぶ事故、災害への対応」にあたって、有識者による企画検討及び伝承される側の若手のニーズ把握のための座談会を実施するなど、準備を開始しました。その他、協会誌電子版の周知を図るため電子版の取り扱い説明の連載などを開始しました。
  - (2) 鉄道施設関係者のための情報交換の貴重な場である各種発表会等については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえて、昨年に引き続きオンライン方式により開催しました。さらに当日参加できなかった会員のために「見逃し配信」を実施し情報の展開に努めました。また、各種講演会等においては、昨年度に引き続き交通新聞社から後援を頂き、優秀な発表について交通新聞に掲載し、参加者や関係者の意欲高揚に取り組みました。
  - (3) 協会ホームページについて、コンテンツの充実やお知らせ機能の強化により、協会の窓口として抜本的な見直しを行いました。合わせて会員からのお問い合わせ等への対応体制を整備して、会員サービス等の向上を図りました。
  - (4) 協会賞には、功績賞2名、技術賞11名及びプロジェクト9件(30名)、施工技術賞12名、論文賞33編(66名)、保安賞35名及び著作賞1編の方が選ばれました。
  - (5) 普通会员について、新型コロナ感染症拡大の影響で支部活動等の行事が開催できなかったことなどから、大きく減少しました。
2. 施設協会が有する「公的性格」を有効に発揮することで、公民鉄各社の独自の取り組みがより社会的信用の増大に繋がることを目的にした取り組みを進めてきました。

- (1) 保安講習会については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による受講定員制限等を余儀なくされましたが、工事従事資格の継続に影響がでないよう実施回数の増加等に努め、必要な講習会を完遂しました。また、その実施においては、新型コロナウイルス感染症拡大につながることはないように、広い会場で離隔等を考慮しての講習会の設定や、検温、消毒及び座席配置の指定など万全の体制で取り組んだ結果、9万人を超える受講者がありました。講習会が原因での発症はありませんでした。
- (2) 保安講習会を受託している西武及び東急について、保安講習会管理システムを開発導入して受講会社における手続きの簡素化等とともに、協会業務の効率化を進めました。
- (3) 今後の保安講習会の実施のための重要課題である慢性化する講師確保難への対応として、持続可能な保安講習会の実施に向けた基本方針を策定、各事務所における今後の体制整備を開始しました。また、JR等との講習会実施に関わる見直しや、施工会社のニーズの把握のための打ち合わせを実施、意思疎通強化に取り組みました。
- (4) 調査研究として、「鉄道の土木基準に関する検証とその対応の方向性等に係る調査検討（国土交通省）」を受託、実施しました。なお、ここ2年新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催できなかった地方鉄道への軌道技術講習会については、初めてオンラインで実施、同講習会の今後の実施方法について新しい形を提案しました。また、「鉄道土木構造物アセットマネジメント検討会の運営（JR東日本）」では、専門家の指導を得ながら円滑な委員会運営を行いました。
- (5) 保線技術の公的資格化については、施設業界の重要課題の一つとの認識に立ち、関係者からの要請を踏まえて精力的に取り組みました。軌道施工会社から要請が強い軌道工事に配置する監理技術者の資格の見直しについて、国土交通省との議論の深度化に取り組み、これを実施するための道筋をつけました。また、協会主催の民間試験となった鉄道技術検定（保線）は、関東大手民鉄等などに受験意欲を進めた結果、多くの受験がありました。更にHPを活用した受験案内や合格発表等を実施しました。
- (6) 叙勲について、民間企業関係者を春2名、秋3名を推薦し全員受章の栄に浴されました。
- (7) JIS原案管理団体として、業界からの意見を踏まえて、日本工業標準調査会（JISC:経産省）における「技術専門委員会（鉄道技術等）」及び国際標準化戦略計画会議等の各種委員会に参加し、積極的に対応しました。
- (8) 鉄道設計技士（鉄道土木）試験」の受験対策講習会を前年度に引き続き実施しました。

なお、事業報告の内容を補足する事業報告書附属明細書は別紙のとおりです

## 附属明細書

### I 会 務 (敬称略)

#### 1 会員数 (令和4年3月31日現在)

- (1) 普通会员 9,262人
- (2) 特別会員 937社

#### 2 総会・委員会等

##### (1) 第11回通常総会

- 日 時 令和3年6月8日
- 場 所 東京都台東区上野1丁目1番10号  
日本鉄道施設協会 会議室
- 議 事 報告事項 ①2020年度事業報告  
②2021年度事業計画  
決議事項 ①2020年度決算  
②役員を選任

##### (2) 理事会

##### (3) 企画委員会

##### (4) 財務委員会

##### (5) 保安事業委員会

##### (6) 叙勲及び表彰選考委員会

##### (7) 功績賞等選考委員会

##### (8) 協会誌編集委員会

企画、用地・協議、線路、土木、鉄道工事と安全各分科会

##### (9) 論文賞等選考委員会

##### (10) 保安賞選考委員会

##### (11) 支部総会等

- 北海道 総会 (令和3年7月12日) 評議員会等
- 東 北 総会 (令和3年7月14日) 評議員会等
- 関 東 総会 (令和3年6月8日) 評議員会等
- 中 部 総会 (令和3年7月21日) 評議員会等
- 関 西 総会 (令和3年7月13日) 評議員会等
- 中 国 総会 (令和3年7月19日) 評議員会等
- 四 国 総会 (令和3年7月6日) 評議員会等
- 九 州 総会 (令和3年6月18日) 評議員会等

### 3 登記等

#### (1) 登記（令和3年6月18日）

2021年度 役員の変更、就任（再任5人、新任6人）

（再任）

芦谷 公稔  
小倉 雅彦  
武上 康介  
野焼 計史  
三輪 誠

（新任）

瀬川 律文  
玉川 岳洋  
中野 博  
平野 邦彦  
三村 和久  
渡邊 修

2021年度 監事の変更、就任（再任2名）

名越 次郎  
峰 英高

## II 叙勲及び表彰（敬称略）

### 1 協会推薦による春・秋の叙勲受章者

令和3年春の叙勲受章者

瑞宝単光章 渡邊 隆司 東鉄工業  
瀧口 康則 三軌建設

令和3年秋の叙勲受章者

瑞宝単光章 鈴川 昇一 北海道軌道施設工業  
秋原 清宏 ユニオン建設  
門脇 政嗣 大鉄工業

### 2 協会賞受賞者（令和3年）

#### 【功績賞】 2名

佐藤 泰生	鉄道機器株式会社 取締役
溝畑 靖雄	元 JR 東日本コンサルタンツ株式会社 取締役会長

#### 【著作賞】 1団体

マタディ橋ものがたり	マタディ橋を考える会/編	1団体
------------	--------------	-----

#### 【技術賞】

『個人』11名

支部	氏名	所属
東北	菅野 英明	JR 東日本
関東	齊藤 岳季	ユニオン建設
	桑原 克也	JR 東日本
	藤原 哲男	鉄道・運輸機構
	丸山 修	東急建設
	望月 俊孝	ユニオン建設
中部	鈴木 一徳	名工建設
	島林 勉	JR 東海
	橋本 辰夫	日本機械保線
関西	一志 義晴	レールテック
	浜本 伸一	阪急電鉄

## 『プロジェクト』 9件 30名

支部	件名	所属	氏名
東北	只見線 第6只見川橋りょう復旧工事	JR 東日本 " " 仙建工業	鈴木 和学 片桐 浩志 小泉 享央 高橋 郁夫
	只見線 第7只見川橋りょう復旧工事	東鉄工業	國富 大起 小野寺智紀 五十嵐嘉寿真 星 貴登
関東	台風災害により流出した鉄道橋りょうの早期復旧の取組み	JR 東日本 " " 東鉄工業	青山 正博 久保木利明 江幡 尚彦 藤生 純之
	耐損傷性向上を目的とした曲線外軌用新型熱処理レール（摩耗促進型）の導入	JR 東日本 " 鉄道総研	品川 恒平 元好 茂 兼松 義一
	原宿駅改良工事	JR 東日本	竹内 美礼 竹石 公之 石島 朝男
中部	高被圧水下における薬液注入の施工管理 —中央新幹線 名城非常口掘削工事—	JR 東海	今泉 匡人 小松 治朗 前田健太郎
	厳しい自然環境下における熊野川橋りょう橋脚基礎補強の取組み	JR 東海	西原 健吾 松井 悦志 白澤 翔平
関西	山陽新幹線帆坂保守基地新設 ～山陽新幹線開業以降初の保守基地新設～	JR 西日本 関西高速鉄道 広成建設	吉津 翔平 橋口 遥介 中塚 誉
	盛土ホームにおけるホーム柵基礎構造の開発	JR 西日本 " ジェイアール西日本 コンサルタンツ	石丸 篤 古谷 亮 近藤 政弘

【施工技術賞】

『個人』12名

支部	氏名	所属
北海道	新木 和浩	札建工業
東北	丸山 哲郎	第一建設工業
関東	庄子 和良	東鉄工業
	田之脇逸朗	交通建設
	伊藤 幸久	日本機械保線
	加藤 久雄	ユニオン建設
	土屋 恒治	鉄建建設
中部	朝倉 義幸	名工建設
	山下 智	ジェイアール東海建設
関西	中川 稔浩	大鉄工業
	大谷 良輝	大鉄工業
中国	山藤 公男	広成建設

【論文賞】 33編 66名

部門	編	論文名	執筆者	所属
用地・協議	3	アニメーション制作会社の物件移転 西武鉄道新宿線連続立体交差事業	立花 勝彦	西武鉄道
		共有者との協議が難航した用地取得の事例～共有物分割制度を活用した事例の紹介～	向田 将理	鉄道・運輸機構
		東京地下鉄における鉄道用地の権利保全（特に未登記・無権利状態と思われる土地への対応）	渡辺 進	東京地下鉄
企画	10	除染を伴う復旧と地域と連携した取組み	三村 栄 石川 健一	JR 東日本
		鉄道施設関連の国際規格の開発動向	田中 博文 川崎 祐征 深貝 晋也	鉄道総研
		JR 東日本のメンテナンス土木業務における DX の取組み事例	大島 竜二 中垣 宏隆	JR 東日本
		経験を踏まえた取組み：耐震設計の高度化	豊岡 亮洋	鉄道総研
		これまでの地震被害の知見に基づいた復旧支援と今後の展開	進藤 良則 佐々木養一	鉄道・運輸機構
		デジタル画像を活用したコンクリート橋りょうの個別検査の省力化	渡辺 健 轟 俊太郎 田所 敏弥	鉄道総研
		保線機械・器具・材料の輸出動向	福島 徹	日本コンサルタンツ
		早期運転再開のための情報活用	山本 俊六 佐藤 亮	鉄道総研 阪急電鉄
		ドローンを使用した高架橋検査及び点検方法の提案	岩淵 貴之	レールテック
		東日本高速道路(株)における DX の取組み	藤澤 元	NEXCO 東日本
線路	10	スタビライザーを用いたMTT夏期施工の実現に向けた理論的および実験的検証	吉川 秀平 高尾 賢一 楠田 将之	JR 西日本
		テルミット溶接部の曲げ疲労強度向上方法の開発	寺下 善弘	鉄道総研
		鋼橋直結軌道における絶縁性を向上させた締結装置の開発	津久井貴大 福澤 樹	JR 東日本
		JR 西日本の在来線における分岐器の保守低減に向けた取組み	正木 亮 東原 孝展 青松 功輝 楠田 将之	レールテック JR 西日本 " "



		在来線スラブ軌道の軌道状態改善の取り組み	小松 佳弘 茂木 朗	JR 東日本
		鉄道MMSによる点群データを活用した調査等の取り組み	沖 真秀 伊藤 翔治	大鉄工業
		表面硬化マンガンクロッシングの改良	石原 克弥	JR 東海
		JR 西日本における鉄道 MMS の開発と導入	中田 隆司 辰己新太郎 山根 寛史	JR 西日本
		外軌レール側摩耗及び車輪フランジ摩耗抑制を目的とした最適な潤滑状態管理の実現に向けて	谷本 益久 渡邊 真一 松田 卓也 高橋浩市朗	東京地下鉄
		軌道工事電子化の取り組み	野田 遼斗	鉄道・運輸機構
土 木	10	上田電鉄別所線千曲川橋梁の被災から復興までの軌跡	村田 成二 宇川慎一郎	上田電鉄
		長大間合いを活用した地方ローカル線の橋りょう修繕工事	佐藤 翼 菊田 一澄	JR 東日本
		ラーメン高架橋の柱はり接合部における機械式定着工法の適用方法	中田 裕喜 西村 脩平 田所 敏弥 幸良 淳志	鉄道総研
		橋梁異状検知システムの開発ー2017年台風21号による男里川橋梁の洗堀災害を経験してー	窪田 勇輝 福本 哲也	南海電気鉄道 シーエス・インスペクター
		内的塩害を部分断面修復したラーメン高架橋への線状流電陽極方式の適用結果	河井 勇樹 野村 倫一 蝦名晋太郎 山口 千晶	JR 西日本 " ナカボーテック "
		在来線における新しい降雨運転規制の導入	山上 正遵	JR 東海
		塩害環境下にある東海道新幹線浜名橋りょうの橋脚コンクリート・主鉄筋取替工事	川崎 剛一	JR 東海
		リベット桁支承部の疲労き裂進展抑制のための補強工法	吉田 善紀	鉄道総研
		CF アンカー工法による大規模改修工事の施工	多田 和樹 荒木 隆博 三島 保人 石井 正樹	双葉鉄道工業
		高野線紀ノ川橋梁 P3 橋脚洗堀防止対策工事	塩見 拓也	南海電気鉄道

【保安賞】 35名

支部	氏名	所属
北海道	浅野 伸隆	北海道軌道施設工業
	南部 雅己	ジェイアール北海道エンジニアリング
東北	和泉 修	ユニオン建設
	片岡 敏浩	仙建工業
	石塚 純一	第一建設工業
関東	中安 徹	日本機械保線
	羽場 剛	建設塗装工業
	柴田 知之	鹿島建設
	乙川 雄一	第一建設工業
	山本 勝利	双葉鉄道工業
	谷本 直樹	ユニオン建設
	梅田 晃寛	大成建設
	諏江 弘之	東鉄工業
	小滝 真也	交通建設
	末松 靖	峰製作所
	村田 浩平	鉄建建設
	遠藤 豪	東鉄工業
	井口 貴嗣	双葉鉄道工業
	高遠 一雄	交通建設
	久保田保寿	武蔵野工業
中部	古川 昇史	名工建設
	真下 英二	ジェイアール東海建設
	長江 浩一	シーエヌ建設
	西池 義幸	名工建設
関西	田村 将也	大鉄工業
	森口 知也	レールテック
	秋月 新一	大鉄工業
	土田 浩一	レールテック
	小杉 昌毅	大林組
中国	藤村 義和	広成建設
	加納 浩二	レールテック
四国	杉村 勇進	金子土木
九州	赤峯 文博	九鉄工業
	友納 稔男	三軌建設
	本田 龍司	九鉄工業

### Ⅲ 行事（敬称略）

#### 1 鉄道施設技術発表会

部門別発表

◇保線／発表件数 18 編 (令和3年7月5日)

最優秀賞 レール両側積卸機の開発による材料運搬作業の改善

名工建設 金原 恵二

交通新聞社賞 小型軌道検測装置を活用したマルチ施工方法の確立

日本機械保線 二宮 嶺陸

優秀賞 2 編

仙建工業 西舘 一樹

交通建設 大川原 学

審査委員特別賞

武蔵野工業 松尾 直樹

◇土木／発表件数 18 編 (令和3年7月6日)

最優秀賞 耐震補強工事における補強鋼板設置治具の開発

仙建工業 竹花 宇史

交通新聞社賞 巨礫を含む地盤の大口径基礎の検討と施工

鉄建建設 川邊亮太郎

優秀賞 2 編

名工建設 前納 祥浩

九鉄工業 久保 佑太

審査委員特別賞

レールテック 岩淵 貴之

#### 2 用地・協議業務研究会

(令和3年9月10日)

講演者

2020 年日本鉄道施設協会用地・協議部門論文賞受賞者及び優秀論文

京浜急行電鉄 田中 慶子

JR 東日本／パスコ 鈴木 有／三石 英史

JR 東海 久保田哲雄／鈴木 俊輔

JR 四国 清水 敦仁

JR 西日本 瀬戸 薫

特別講演

「土地政策の動向を読む

～土地政策の改革に因る土地制度の変化を用地業務に活かす～」

(公社) 日本不動産鑑定士協会連合会顧問 不動産鑑定士 熊倉 隆治

#### 3 総合技術講演会

部門別講演

◇保線／発表件数 14 編 (令和3年10月19日)

最優秀賞 MTT の効率的な運用計画及び持ちの良い MTT 施工方法の検討

JR 東日本 安川 史孝

交通新聞社賞 クロッシングの構造強化による延命化

JR 東海 星 祐太

優秀賞 2編  
JR 東日本 石見 涼  
阪急電鉄 長谷川昭夫

審査委員特別賞 2編  
鉄道・運輸機構 野田 遼斗  
JR 北海道 村井 建太

◇調査・計画／発表件数6編 (令和3年10月20日)  
最優秀賞 羽田空港アクセス線整備 ～都心からのダイレクトアクセスを目指して～  
JR 東日本 堀田 大貴  
交通新聞社賞 広島市東部地区連続立体交差事業の事業化に向けた技術的検討  
－広島駅を中心とする市街地・鉄道網の発展とその機運を捉えた高架化  
再事業化の実現－  
JR 西日本 森 勇樹

◇構造物検査／発表件数9編 (令和3年10月20日)  
最優秀賞 大浜街道架道橋箱桁内のき裂発生の原因究明と対策工法の検討  
JR 東海 中東 佑輔  
交通新聞社賞 鋼鉄道橋りょうにおける支承部疲労き裂変状の分析と対策  
JR 東日本 小菅 匠  
優秀賞  
JR 北海道 中西 駿  
審査委員特別賞  
JR 九州 村上 颯

◇土木工事施工／発表件数14編 (令和3年10月21日)  
最優秀賞 台風災害により流出した鉄道橋りょうの早期復旧の取り組み  
JR 東日本 小田倉康裕  
交通新聞社賞 田沢湖線齊内川橋りょう架替  
～新幹線走行線区における最長・最重量のPRCランガー橋の横取り架設～  
JR 東日本 坂本 峻  
優秀賞 2編  
JR 東海 小松 治朗  
JR 西日本 内田 慶一  
審査委員特別賞 2編  
JR 九州 梶栗 壮平  
鉄道・運輸機構 野口 亮輔

#### 4 支部講演会等

##### ◇中部支部

講演会「3次元データ活用とインフラメンテナンス」 (令和3年7月21日)

大日本コンサルタント(株) インフラ技術研究所 上席研究員 和泉 繁氏

##### ◇関西支部

発表会「令和3年度関西・中国支部 鉄道施設技術発表会 (保線部門)」

(令和3年6月9日)

見学会「北大阪急行線延伸工事見学会」

(令和3年12月17日)

##### ◇中国支部

発表会「令和3年度関西・中国支部 鉄道施設技術発表会 (保線部門)」

(令和3年6月9日)

##### ◇四国支部

技術講演会 (発表12件)

(令和3年7月28日)

写真展 (土木工事写真展 高松駅コンコース)

(令和3年11月17日～24日)

#### IV 調査研究等

鉄道設計技士 (鉄道土木) 受験対策講習会

(令和3年7月3日)

1級土木施工管理技士資格試験取得支援講習会

(令和3年9月11日)

鉄道技術検定 (保線・土木) 試験の運営

(令和3年11月7日)

日本産業規格 (J I S) 軽レール 改正

(令和3年12月20日)

##### 国土交通省

リニア中央新幹線静岡工区に関連する国内トンネル工事事例の調査検討

鉄道の土木技術基準に関する検証とその対応の方向性等に係る調査検討

##### 厚生労働省

外国人技能実習制度に係る鉄道施設保守整備 (軌道保守整備作業) の評価試験運営

軌道保守整備技能実習評価WG

(令和4年1月19日)

軌道保守整備技能実習評価試験委員会

(令和4年2月10日)

軌道保守整備技能実習評価委員会

(令和4年3月17日)

##### JR 東日本

鉄道土木構造物アセットマネジメント検討会の運営

## V 保安関係講習会等

講習会	実施回数	講習人員
工事管理者（在来線）	226	8,359
工事管理者（新幹線）	119	4,105
軌道工事管理者（在来線）	99	2,874
軌道工事管理者（新幹線）	38	1,091
重機械運転者	335	11,278
特殊運転者（MC）	67	1,779
特殊運転者（新幹線 MC）	17	779
特殊運転者（MTT）	3	63
軌道作業責任者（在来線）	48	1,035
軌道作業責任者（新幹線）	21	324
民鉄関係	103	3,739
省令 10 条教育等	906	40,378
列車見張員その他	830	17,674
合計	2,812	93,478

## VI 刊 行

日本鉄道施設協会誌